



いつの時代もその迫力と美しさで人々を魅了してきた桜。その魅力を地域おこしに生かそうと、阿瀬比、山口、桑野、内原の4町の住民で組織する桑野地域振興協議会が「シダレザクラの里づくり」に取り組んでいる。徳島県南部健康運動公園内に植えられた桜は1500本余り。活動10年目の春を迎え、幼木は妖艶な成木の姿を現し始めている。

平成19年5月、公園内に野球場がオープンしたことで地域はにわかに活気づいた。「地元の誇りとして、この公園を日本一の桜の名所にしよう」と地域に呼び掛けたのは、ちょうどその頃。日本桜協会等からの支援もあり、3年間で1530本の苗木が集まった。

桜の品種は、優美で赤い花が特徴のベニシダレ。ソメイヨシノと比べて管理に手間がかかるが「日本一をめざすなら」と決めた。公園を囲むように広がる山肌を7つの区域に分け、地域ごとに植樹。年2回の下草刈りには延べ600人を動員するなど、一大行事となっている。



植樹して2年間は支柱を立てて成長を促す



濃いピンク色の花を咲かせるベニシダレ

下草刈りのようす

住民の先頭に立って桜の管理に汗を流してきた会長の谷中勝信さん(70歳・山口町)は語る。「地域の連帯感を保つたためには、住民が寄り合える機会を絶やさないことが大切。そこには夢もほしいですね。地域の方々には、下草刈りなどで大変なご苦労をおかけしていますが、これも誇れるふるさとを次の世代に受け継ぐため。桜が立派に成長し、多くの方々と春の喜びを分かち合えることを夢見て頑張っています」。

全国津々浦々、桜の名所と呼ばれる場所はたくさんある。いずれの場所にも桜を愛し、守って、こうとする「花守り人」たちが存在する。桜とともに生き、地域の発展を願う人々の姿は、その土地にしっかりと根を張り、枝を広げようとする桜と重なる。地域の夢が託された桜が、公園一帯をピンク一色に染め上げる日が待ち遠しい。